

報告書

1．略歴

(略)

2．保育所でのガラスバッジの扱い

私の娘は昨年3月の福島原発事故前まで郡山市街地の保育園に通ってましたが、事故のあとは避難先の保育所に通い、昨年末に郡山市立の保育所に転入し、現在まで通っています。そこでの昨年末からのガラスバッジの扱いを以下に記します。

保育所の子どもたちはガラスバッジを首から下げて車で登校し、保育所の玄関でガラスバッジを首から外して先生に渡し、それから教室へ入っていきます。そのガラスバッジは1日中職員室で保管され、下校時に返してもらいます。ほぼ毎日外で運動をしていますが、ガラスバッジは保育所の建物の中に置いたままです。

本年8月、私は確認のため、保育所の主任に「子どもたちが外で運動をしている時にガラスバッジをどこに保管しているのか」と尋ねると、「職員室内でなくならないように保管しています」という返答があり、さらに保育所内でガラスバッジを外す理由を尋ねると、「子供達がじゃれあったりして首に絡まったら危険だから」という返答でした。

本年10月、娘の担任に現在のガラスバッジの扱いを尋ねたら、「今ではバッグの中に入れてきてもらって、保育所ではそのバッグを建物内で預かり、下校時に返しています」という返答でした。

これではガラスバッジの測定値は、実際の外部被ばくの値よりも少なく表示されるだろうなと思いました。

私は県外保養で知り合いになった福島市のお母さんや郡山市の他の保育所のお母さんたちに聞いても、保育所内では先生が子どもからガラスバッジを預かっているという話ばかりです。

今回、以前、在籍していた郡山市市街地の保育園の園長先生に「そちらの保育園ではガラスバッジを建物内で預かっていますか」と尋ねてみたら、「登校時に玄関の箱に入れ、下校時まで保管しています。事故防止の為に首に下げない

配慮はどこの保育園でも当たり前だと思います。」という返答でした。

以 上

2 0 1 2 年 1 0 月 5 日

仙台高等裁判所 第 2 民事部 殿